

ビオトープ・イタンキ通信 第15号

NPO法人 ビオトープ・イタンキ in 室蘭

2024年5月1日

NPO 法人 ビオトープ・イタンキ in 室蘭では「ホテル再び、人にやさしい街・室蘭」を合い言葉にビオトープ作りを進めています。原始のままの海岸線、鳴り砂の浜に続く草原の一角に、今は失われてしまった湿地を復元し、子供たちが生き物と触れ合える場の再生を目指しています。

【ビオトープ・イタンキ自然観察会のご案内】

自然体験学習は、予め希望団体の方から申し込みをしていただき、最初に日程調整を行います。体験学習の1週間ほど前に各学校に出向き、事前学習を行うこともできます。海陽小学校などの比較的近い学校では徒歩でビオトープまで来ますが、遠方の学校では貸し切りバスを利用したり、路線バスを利用し東町ターミナルから歩いて来ることもあります。また遠足や宿泊研修などの行事を兼ねて行う学校もあります。

ビオトープ・イタンキの池には、トミヨ、マドジョウ、コオイムシ、ヤゴ、ミズカマキリ、モノアラガイ、タニシなどが住んでいます。池周囲ではアキアカネ、シオカラトンボ、ギンヤンマなどのトンボ類が、そして草地ではモンキチョウ、ヒメウラナミジャノメ、クジャクチョウ、ミヤマカラスアゲハなどの蝶類も数多く見られます。網の使い方に慣れていない子供達も多く、先生やNPO法人会員から採集の手ほどきを受けながら必死になって追いかけています。

持ち帰って自宅で飼育を希望する子供達も多く、飼育のための簡単な指導なども行っています。このような貴重な体験を子供のうちに経験できることは自然科学への関心を育み、自然環境や生物多様性の理解の礎となります。2023年の自然体験学習は、5月の室蘭清水丘高校3年生15名による総合的な探求学習から始まり、八丁平小学校、海陽小学校、ほくと保育園などの常連校に加え、地球岬小学校が初めて参加しました。学校活動だけではなく、子供会などによる行事としても活用いただき、未来を担う子供たちが、身近な小さな生き物たちと触れ合い、故郷の豊かな自然を感じる機会にさせていただけることを希望します。



自然体験学習の様子

【ビオトープ・イタンキは生態系復元の場所】

ビオトープ・イタンキは、かつて室蘭市内に存在した湿地を復元して、近郊の湿地などから在来の動植物を導入しています。

これまでも何度か、観賞魚や外来種が持ち込まれる例がありました。2022年4月には、観賞魚のヒメダカが放流されたのが確認され、2023年10月に約30匹駆除しましたが駆除しきれず、2024年4月に2ヶ所の池で再度駆除を行いました。一度放流された観賞魚を完全に駆除するのはたいへんなことです。近年では飼育放棄されたアライグマによる農作物への被害が深刻化しています。ビオトープ・イタンキに限らず、飼育している動植物を自然界に放すことがないようご協力をお願いいたします。



駆除されたヒメダカ